

概要

少子高齢化やモータリゼーションの進展等により利用者が減少する中、利便性の向上や観光資源との連携による利用促進策(日常・観光)の検討を行う必要がある。併せて、沿線自治体等で構成される一畑電車沿線地域対策協議会は線路・電路等基盤設備の整備に対して支援を行っており、今後、平成23年度以降の次期支援策を策定する必要があることから、基盤設備の老朽化等についての現状調査や収支等経営の分析などを行う必要がある。これらの調査・検討を通じて、一畑電車の維持・活性化に資する連携計画の策定を目指す。

○地域の公共交通(一畑電車)の現況

- ・松江市と出雲市を結ぶ鉄道(営業キロ42.2km)。生活の足であり、また、観光地を結び宍道湖北岸を走る観光路線
- ・利用者減(年140万人台で推移)の中、平成20年度は、出雲大社特別拝観やNHK「だんだん」の影響等で約6万4千人増加
- ・一畑電車沿線地域対策協議会(島根県・松江市・出雲市)が基盤設備の整備等について支援(平成22年度まで)

○地域公共交通(一畑電車)の課題

- ・昨年度の利用者増を持続可能なものにすべく、さらなる利用促進策を打ち出す必要
- ・平成23年度以降の次期支援策について検討を進めるため、現状・課題・見通し等の整理・分析を行う必要

○調査の主な内容

- ①一畑電車の現状調査
→地域概況、現状・課題、利用実態、設備の老朽化等の調査
- ②収支・経費等今後の経営に関する調査
→需要予測・収支見通し、地域のニーズ、設備の維持管理・更新の見通し、次期支援策についての課題等の調査
- ③利用促進策調査
→日常・観光の利用促進策、地域とのタイアップ、沿線資源・広報のあり方、映画「RAILWAYS」の活用、電車空間の向上等の調査

○地域公共交通総合連携計画の構想(今後検討)

- ・現状、今後の経営のあり方、利用促進策等について記述

